

巻頭特集

名和哲夫先生と昆虫の世界へ

好奇心を育む昆虫探し



植物や昆虫が大きく成長し、活発になる夏。
自然豊かな岐阜には、昆虫と仲良くなれる場所がたくさん！
「どんどこに昆虫がいるの?」「昆虫を捕まえてみたい!」
羽島市在住の藤崎さん親子が「名和昆虫博物館」の名和哲夫先生に、昆虫のことを教えてもらったよ!

いつもおじいちゃんと昆虫捕りに行くよ。触るのは少しこわいかな



体験したのは
羽島市在住
藤崎理恵ママ
とうま
斗麻くん(5歳)



教えてくれたのは
名和哲夫先生
「名和昆虫博物館」の5代目館長。
昆虫の知識はもちろん、
子ども目線でのレクチャーはとてもわかりやすく、楽しい

昆虫のこころを学ぼう！
座学編

1 見たことがない昆虫がたくさん！



ずらりと並ぶ昆虫に圧倒！

4 昆虫博士のお話しは楽しくて、ワクワク！



しかけと驚きいっぱい館内
昆虫の世界に引き寄せられる

名和昆虫博物館の扉から部屋をのぞいた瞬間、思わず「わあー」と声を上げた斗麻くん。一面に展示された昆虫標本、その数の多さに大人も圧倒される。地球上には100万種以上の昆虫がいるといわれているが、一部が種類別にきれいに並ぶ。

2 あちこちにある「ヒミツの扉」にドキドキ！



なんだろう…

「金色と銀色のコガネムシだ！」

3 クイズで楽しく学べる



昆虫はどれかな？

1、2、3…

たくさんの「チョウ」の中から「ガ」を探そう

「ギフチョウ」ってどんなチョウ？



館内には、ギフチョウの生態展示もある

明治16年(1883)、現在の下呂市金山町で、名和先生の高祖父靖さんによって発見されたギフチョウ。岐阜で見つかったことから名づけられた。生息地は日本本州のみ。ほかのアゲハチョウと比べて小さく、開張5cm程度。夏と冬をサナギで越し、3月末ころより羽化が始まる。サナギの期間が約10カ月と長い上、成虫の姿を見られるのも春先のわずかな期間。そのすべてが、ギフチョウの魅力ともいえる。

開張とは…羽をひろげたときの端から端までの長さ

「昆虫はちよつと苦手」という理恵ママと、おそろおそろ館内に足を踏み入れた斗麻くんだったが、生態展示の昆虫や昆虫クイズなど、工夫を凝らした展示に、どんどん興味が沸いた。「これは何？」「開けてみよう！」「積極的に挑戦してみよう！」「もう一回あの昆虫を見てみよう！」「知りたい！」が止まらない。

2階へ行くと、さまざまな生き物が入り交じった標本の前で立ち止まった斗麻くん。「この中に昆虫でないものがあるよ。どれかな？」と、名和先生が声をかけると、「うーん」と悩み込む。「ヒントはね、昆虫の足は6本だよ」とのアドバイスに、足を数え、答えを自分で発見することができた。「昆虫の足は6本なんだね！」「と、斗麻くんの記憶に深く刻まれたようだ。

昆虫を探してみよう！
実践編

5 アゲハの幼虫はどこにいる？



この木だね

柑橘類の葉っぱが好物だよ。ほら、ここに幼虫がいるね

6 昆虫を捕まえてみよう！



ヤブキリだ!!

パンジーの葉っぱも欠けてる！どこかに昆虫がいるかもしれないね！

あつ！網に入ったよ！



網の上から手で持って、虫かごに入ると逃げられにくいんだよ

ポイント！

欠けた葉っぱがあったら、昆虫がいるかもしれないよ。葉っぱの裏も探してみよう

7 捕まえた昆虫を観察しよう



足はやっぱり6本だ！どんな風に動くのかな

昆虫を観察する子どもを親はそつと見守る

館外の庭にはアゲハの幼虫が好む柑橘類の木など、昆虫の住みやすい環境が整備されている。キンカンの木をのぞくと、さっそく葉っぱにアゲハの幼虫を発見。「なんかウンチみたい」と斗麻くんが笑うと、「鳥のフンみたいだね。この色や形のおかげで、鳥やほかの虫に食べられにくいと考えられているよ」と名和先生がやさしく教えてくれた。自分で感じたことが生誕に大きくかわっていたことを知って、斗麻くんは自信がついた様子。

「子どもが昆虫に興味を持つのは、自然なことだと思います。子どもは昆虫を観察し親はその子どもを観察するように、長い目で見守っていただけたらうれしいですね」と名和先生。例えば、手で握って虫を死なせてしまっても、決して叱らない。目を輝かせてやったとしたら、なにか知りたいことがあったのかもしれない。「興味のある芽を摘むことなく、そして無理に後押しもせず、ゆっくりと自然への扉を開けてほしい」と名和先生は笑顔で話す。

「昆虫が苦手な私ですが、子どもが自由に昆虫と接する機会を増やしたいと思いました。興味のあることで、子どもに一步近づけた気がします」と理恵ママ。「昆虫のことをもっと知りたいな。今度は自分で触れるように、たくさん探してみるよ」と、捕まえたヤブキリとダンゴムシをうれしそうに観察する斗麻くんだった。



AR

ARで、幼虫の成長を見てみよう

葉っぱの先をのぞいてみると…
卵があった！



身近な昆虫のあれこれ、聞いてみたよ

名和先生の昆虫不思議事典



1 カブトムシの角はどうしてあるの？

A.「戦い」のためにある！



エサである樹液の場所を守るために、カブトムシは戦う。そのときに使われるのが角だ。メスにツノがないことから、メスを奪い合うための武器でもあられるよ。

2 どうしてセミの声は大きい？

A.メスの気を引くためにがんばっている！



素敵なメスと出会うため、自分を魅力的に見せるため、大きな声でアピールするんだよ。

3 チョウの羽はどうしてカラフル？

A.羽が美しいのは、仲間をみつけるため！

たくさんのチョウの中から仲間を見分けるために、模様があるよ。その模様の違いで、他の種と間違わずオスとメスが出会えると考えられているよ。ちなみに夜行性の方は、羽の模様でなく、メスが出すにおいで同じ種のオスを引き寄せると。昼間に活動する方には、美しい羽を持つものもいるよ。

4 昆虫は何を食べるの？

A.成長段階によって食べるものが違うよ！



どんな昆虫も食欲旺盛なのは幼虫のとき。幼虫の大きさが成虫の大きさが決まるから、幼虫の頃にもりもり食べて体を大きくするよ。成虫になったら、飛ぶためのエネルギーを蓄えたり卵を産むために栄養が必要なんだ。チョウの場合は、幼虫のときは葉っぱがごはん、成虫になったら花の蜜や樹液などでエネルギー補給は十分なんだよ。

名和先生からのアドバイス！

小さなときに食べるものが大切なのは、昆虫も人間も同じ。今は食べられない野菜があるかもしれないけれど、興味をもっていろんな野菜に挑戦すると元気で強い大人になるよ。



建物は文化財、「昆虫楽会」で昆虫ともっと仲良く！ 名和昆虫博物館

大正8年(1919)に開館して以来、昆虫専門の博物館として活動を続ける、日本でも珍しい博物館。館内の昆虫標本だけでなく、館外には昆虫生息のための庭があり、生きた昆虫を見ることが出来る。

友の会「昆虫楽会」に入会すると、入館割引だけでなく昆虫採集や自然観察などの行事に参加でき、昆虫に関する疑問について話しを聞くことができる。

DATA

住所：岐阜市大宮町2-18
TEL：(058)263-0038
入館料：高校生以上500円、
子ども(4歳以上)400円
開館時間：10:00~17:00
休：水・木
祝日の場合は開館
12・1・2月は火~木
夏休み期間は無休
www.nawakon.jp/



◀このマークを見つけたらスマホでチェックしよう！

スマホをかざせば

動画が見える! AR フリモAR

まずはアプリをダウンロード!

右記の二次元コードまたは対応アプリストアよりダウンロードください。



対応OS
iPhone: iOS 8.0 以上
Android: 4.1 以上

※バージョンが満たないOSはアップデートが必要です

- 1 フリモAR®アプリをダウンロードして起動
- 2 マークがついた写真にカメラをかざすとスキャン開始
※写真の向きにあわせてカメラをかざしてください
- 3 スキャンに成功すると動画がスタート!

※ Apple および Apple ロゴは米国その他で登録された Apple Inc. の商標です。App Store® は Apple のサービスマークです ※ Google Play および Google Play ロゴは Google Inc. の商標です